

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成28年度 第2回伊達市立図書館あり方検討委員会		
議 題	(1) 今後の図書館に求められる機能について		
開催日時	平成28年7月6日(水) 18時30分～20時00分		
場 所	伊達市立図書館 1階閲覧席		
出席者	伊達市立図書館あり方検討委員会委員 10名(欠席者0名) 事務局(伊達市教育委員会教育部図書館)		
	所管部課名	伊達市教育委員会教育部図書館	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	1名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

【会議の概要】

1. 開会
2. 議事

(1)今後の図書館に求められる機能について

【意見交換】

委員長～議題(1)に入る前に、事前に事務局から提供された人口類似市の詳細資料について質問等があるか。

委 員～網走市について、人口がほぼ同じなのに来館者数が非常に多いようだが原因は何か。

事務局～平成12年に建て替えられ比較的新しい施設であることや、複合施設のため来館者数のカウントの仕方が違う事等が要因でないかと考えられる。

委 員～資料を見ると、色々なところにヒントが見えて来ていると思うので、追々、質問やお願いをする部分があるかと思う。詳細資料を見ると、もしかしたらやり方にも違いがあるのではないかと感じた。

委員長～その他資料についての質問等あるか。

委 員～来館者数に関してだが、図書館運営協力会として何回か先進地視察にいつているが、来館者が増える一番の原因は、やはり施設が新しく大きくなること。それが人を集める一番大きな材料だと感じる。規模は違うが、函館にしても恵庭にしても新しい施設を作ることによって来館者数がすごく増えたと聞いた。

委員長～図書館運営協力会では、去年は恵庭、その前に函館、千歳に視察に行った。資料を見ると、伊達市の図書館は図書予算、購入図書、視聴覚資料費の少なさが目立つ割に、来館者、登録者の割合、利用率が高い。これがもし、新しい図書館になったらすごい事になるのではという印象を持った。資料についてはよろしいか。

全 員～よし。

委員長～それでは議題(1)に入る前にもう一点。前回、図書館の中を見学して何か感じた事、印象、問題点などあれば、意見をいただきたい。

委員～率直に言って、閉架の図書がすごく多いと感じた。また、車イスでの利用が困難であると感じた。もう一点、新聞についてこの先ずっと捨てずに保存していくとの事だが既に保管庫にびっしり入っている状態なので、この先どうなるのか。例えば、近隣市それぞれの図書館で保存するのではなく、西胆振広域連合に委託して一カ所にまとめるといった方法もあるのではないかと。過去の新聞を求める利用者がどれだけいるのか、住民サービスの低下までいかないのであれば、各図書館で抱えている問題を解決する一つの手段と考える。

委員～新聞は電子化して残すことはできないのか。

委員～過去から今までの分を電子化するのは作業量的にかなり厳しいのではないかと。

委員～今までのやり方でいくと、今後永遠に増え続けるのだから施設を大きくしてもいつかは限界が来てしまう。

委員～道立図書館を始め各図書館が悩んでいる問題だと思う。新聞をどこで保存し公開するのかを考えると、今までの歴史の中でもその役割を担うのは図書館であり、図書館の大きな機能の一つである。私が学生時代に、もう廃刊になった北海タイムスに掲載されたことがあるのだが、その記事を他館から借りてもらって伊達の図書館で見ることができて、青春の思い出を手に入れることができ、図書館ってすごいと実感した。保存の方法は考えなければいけないが、図書館の重要な機能だと思う。

委員長～図書館の性質上、新聞を利用者が見たいときに、見てもらえるような状況にしておく必要があるということだが、保存方法についてどうするのかは、伊達市の図書館をどうするのか、あり方はどうなのかという事に直接関わらないかもしれないが、大きな問題である。新聞社と連携して電子化したデータを保管することができるのか等、今後考えていかなければいけない。

委員～やはり、狭い。天井も低いせいで、書架の高さもほかの図書館に比べると低い。

委員～絵本も背表紙しか見えない。子どもは背表紙で本を選ぶのは難しいので、表紙で選べれば良いと思う。やはり、スペースに余裕がない。

委員長～図書館に入ってまず案内掲示がなく、どこに何があるのかわからない。トイレも暗い雰囲気だと感じる。

委員～Wi-Fiは使えるのか。

事務局～整備されていない。

委員長～他になれば、議題(1)「今後の図書館に求められる機能について」だが、既にいくつか意見が出てきているが、委員の立場、市民の立場として各委員の意見をいただきたい。

委員～私はよく図書館を利用するが、本を借りに来るだけ。館内で何かしようと思っても席

も限られており、ゆっくりしていこうという気持ちにならない。実家暮らしだと家族と常に一緒にいるので、たまに一人で過ごしたいという時に来てもなかなかゆっくりしていけない。学生時代は札幌の図書館を利用していたが、居場所としても使わせてもらっていた。伊達の図書館も、本があるという事だけではなく、居場所としての図書館になれば良いと思う。

委員～私も同じ意見。音楽とかが全く流れていない事はすごく貴重な事だと思う。今はどこに行っても音に溢れている、何も音のない空間はすごく贅沢な事。前に来た時に子どもたちが多く来ていて騒がしかった。それで、本だけ借りてすぐに帰った事が何回かある。静かな部分と騒がしい部分の、空間の使い分けが大切だと思う。

委員～2階を見学して思ったのだが、勉強する場所がブースになっていない。受験勉強にしてもブースになっていないとやりづらいと子供たちは言っていた。最近、大人も資格だったり家ではできない事を図書館だったり、都会ではカフェでしている。そういう時に個のスペースがあれば利用する人が増えるのではと思う。

委員～他の図書館でもブースは結構ある。

委員長～学校図書館はブースがある。

委員～都会ではファミレス等で勉強している子供たちを見るが、伊達はそういった場所も少ない。集まって勉強しようといった時の場所が必要。

委員～ほとんど皆さんと同じ意見だが、安心していられる居場所としての機能も求められていると思うし音のない空間はストレスを感じずに居られる場所として必要だと思う。2階の学習スペースは隣同士が近くて、集中できる子供は良いかもしれないが、ちょっと可哀そうだと思う。

委員長～女性の方4人から意見を戴いたが、みなさん同じような視点で、ゆっくり静かに落ち着いて時間を過ごせる空間が必要だということだね。

委員～今の世の中、ちょっとバタバタしてせわしない。ほっとできる場所としての図書館というのが良いと思う。

委員長～男性からは違う視点もありますか。

委員～私もまったく同じ意見。中高生の来館者が非常に少ないようだが、私から見ても図書館は静かな場所、勉強する場所という認識が非常に強い。伊達の子供たちの学力アップを図るという意味で今後の図書館を考えても良いのではないか。退職教員で何か小学生を対象とした学習の手助けのような事をする場があっても良いと思う。中高生の口コミは結構なもので、そういった若い世代が今後利用していくと色々な発想や意見が出てきて良い図書館になると思う。

委員～中高生の利用者数の落ち込み方がひどい。学習スペースの充実だけで解決するのか不思議なぐらいの落ち込み方をしている。

委員～勉強する場としての提供が薄いという事が中高生にはすごく大きい要素だと思う。登別図書館の館長は、図書館はなりふり構わずに人を集めなさいと話していた。図書館と関係ないようなイベントであっても、図書館でやることによってそこから図書館利

用につながると話していた。中高生に対して勉強の場を提供するという事は図書館の利用促進にすごく大きな要素だと思う。

委員～中高生の利用が少ないのは伊達の図書館だけの傾向なのか。

事務局～全国的に中高生の利用は少ない。利用促進のため中高生をターゲットにしたヤングアダルトコーナーというのを設けている図書館もある。ブースがあるところは利用者も多く見受けられる。

委員～平成3年ころのピーク時の22パーセントくらいまで落ち込んでいる。分析が必要だと思う。

委員長～伊達市の図書館にどういう機能、役割を求めるのかということで意見をいただいていた。スペース、くつろげる空間、勉強できる空間というような話が中心に出てきているが、他にいかがか。

委員～幼児は自分で本が読めないので、親が読み聞かせをすることになる。そうなる必然的に音が出る。私は、周りに迷惑がかかってしまうので、現状のこの環境で読み聞かせをしようとは思えない。そういったことから、子供を持つ親からすると、来て、子供と過ごそうという人は少ないと思う。静かな空間を求めて来る人が多いと思うので図書館の中に子供が親と過ごせるスペース、騒いでも良いスペースがあれば良いと思う。若しくは、子育て支援センターなどの子供と一緒に過ごせる場所が充実してきているので、そこを利用して絵本を貸し出すとかで住み分けするという方法もあると思う。

委員～伊達市は相当な勢いで高齢化が進んでいる。時間のある1人暮らしの高齢者が増えてきている中で、その人たちの行く場所を図書館に求めることができるのではないか。サロンの要素があって、来る人と自然にコミュニケーションが取れるような機能があると良いと思う。

もう一つは、人に相談できない人が結構いると思う。虐待、DV、いじめ、認知症といった事はなかなか相談することができなく、悩みながら内にこもってる場合が多いと思う。そういった関係の図書を充実させることによって、図書館へきて何かヒントをもらおうとか。欲を言うならば、さりげなくその方々に相談窓口への橋渡しをするような仕掛けができれば良いものになると思う。誰にも話せないで悩んでいる人が多いのは間違いないので、そういった方々の受け皿になるような機能を持つと良いと思う。

委員～図書館の一番の機能は本との出会い。もう一つは、少子高齢化社会で人が減っていく中でどうやって問題をシェアしていくかという事が求められていると思う。TSUTAYAは民間事業者なので収益を出すことが目的だが、函館の店はコンセプトを変えて、職場なり学校、家庭のとは別の、第三の居場所としての店づくりをしている。そういった居場所を求めて来る人には、今の伊達の図書館のデザインでは難しい。学習したい人はブースが欲しいだろうし、サロンのものを求めるのであれば音が出る。だからと言って縦割りに高齢者おしゃべりサロン室を作っても誰も入りたくないと思う。TSUTAYAを見て面白いと思ったのは、暖炉を作って周りに椅子を置いている。そうすると、人が集まって来ておしゃべりをしている。車社会だとなかなか人と会うことがない、そこで、なんとなく人が来て話せるような居場所としての機能は必ず必要だと思う。

先ほどの話で、中高生の利用がすごく減っているとの事だが、おそらく、親に図書

館に連れて来られてない世代が増えてきているのではないかと。最初のハードルの障壁を下げることを考えると、小中学校、高校に出前講座で行って図書館利用をPRするのも方法だと思う。

水族館でのナイトキャンプ等のイベントがあるが、図書館でも同じような事ができるのではないかと。小学生が夏休みに図書館に泊まって、いくらでも夜更かしして本を読んでも良いというような。そういったイベントをやることで啓発していく。やがてその子たちが中学、高校と進んでいくと友達を連れて図書館に来るようになる。その時に、今の図書館が新しいものになっていけば、彼らの居場所になると思う。箱としてのデザインとどうやって需要を喚起していくのかという二つの問題があると思う。

先ほどの中高生の利用に関して、動線の話になるが、中学校、高校と駅の場所の関係性、何時にバスなりJRが来るのかで、どこで時間を潰すかが決まる。びっくりドンキーの中で勉強したり、どこかしらで勉強している子を目にする。動線で1日のスケジュールが決まるので、例えば、各交通機関のアクセスを考えて、図書館が放課後学習の場を提供するという事を図書館から各学校に提案していくのはどうか。次に、小さな動線、図書館の入り口について。公園側にもあったら良いのではないかと。公園を利用している人が入りやすくなる。あと、借景として公園が美しいので庭に出て木漏れ日の下で本を読めるような仕組みを作ると居場所として良い機能を持つと思う。

委員～図書館運営協力会として、発足以来、建物を何とかして欲しいという事が一番の希望であった。今回このあり方検討委員会ができたことが、その希望への第一歩であると非常に喜んでいる。今回の会議の内容について、9月に開催される図書館運営協力会で報告し、意見をもらって、第3回目のあり方検討委員会に臨みたい。新しい図書館を作るとしたらどういった機能を求めるかと、現状の図書館に対して求めるものの二つがあるが、後者として、学校司書制度の導入を昨年度提言した。予算の関係で各校への配置は難しいと思うが、1人の学校司書が何校かを受け持つといった方法であれば実現が可能だと思う。それによって、学校の図書室が充実し、子供たちが本に興味を持って読書の普及につながり、それがその子供たちの親にも広まり、市民全体の読書活動の普及につながる。

先ほどの相談や心配事の解決についてだが、図書の購入は図書館でできるとしてもそれに対応する事まで図書館で引き受けるとなると、現在の職員体制では今でさえ大変なのに難しいと思う。そう考えると、他の組織との連携を考えていくことが大事だと思う。

あと、アクセスの問題。市役所の前に建った市民活動センターに図書館を入れれば良いというようなこともあるが、環境的に言うと現在の場所が良い。緑に囲まれた中で、ゆったりとした気持ちで過ごせる。そのために、この場所へのアクセスや夜間照明の改善などの環境整備が必要だと思う。

ところで、購入図書の選定はどのような基準で行っているのか、市民の意見は反映されているのかといったことは皆さんご存知か。

委員長～図書の選定について、市民の声は反映されているのか。

事務局～利用者からのリクエストについては、適したものであれば応えるよう配慮している。また、当館の方針として、年間予算の二割は基本図書購入に充てることとしており、事典、辞書、全集等の必ず図書館にあるべきものを購入している。

委員長～リクエストはどのように受けるのか。

事務局～窓口、館内端末、インターネットから受け付けている。

委員～図書館として色々な事をしていて、PRもしているのだろうが、なかなか市民には浸透していない。これから、図書館のあり方を検討委していくうえで各委員が図書館の中のことについて理解することが大切。司書は何人いるのか、正規の職員は何人かといったことも含めて。色々なことを知るために、疑問に思ったことはどんどん事務局に聞くことも必要だと思う。

委員～では、早速質問だが、現状で他の組織との連携はあるか。

事務局～読み聞かせボランティア、布絵本作成の団体、個人ボランティアが本の配架で3名、修繕で1名、花壇整備で1名いる。その他、健康推進課、子育て支援課、子育て支援センターと連携し乳幼児対象のブックスタート事業をしており、そこでもボランティアに協力していただいている。

委員長～他の施設との連携はあるか。

事務局～団体貸出をしている。各小中学校へ1か月を期限とし100冊まで貸し出している。団体貸出ではないが、子育て支援センターへも貸し出しており、これについては、子育て支援センター経由で個人が借りることもできる。その他、老人施設への貸し出しも行っている。市内6カ所の地域文庫は半年に一度250冊を入れ替えている。

委員～今後の図書館という事で、大きく分けると二つだと思う。この図書館を新しく改装するなり建て替えるなりについての検討。もう一つは、今までの図書館のあり方と、これから求められるあり方を同時に考えていくというのが、この会だと思う。そのなかで、先ほど話が出ていたお泊り会は、とても話題性もあるし、今すぐ始めても面白いと思う。子どもは夜更かしできるのがものすごくうれしいらしい。

委員～それについては、現実的に考えるとすごく難しいと思う。一つは、絶対、子供たちが来た時に、それを管理する人間が必要。それを図書館の機能として、図書館に求めても、大変な話だ。図書館の職員が対応することは難しい。そういう提案があれば、空間を提供しますよという事はできるだろうが。企画から運営までを今の体制に求めても難しい。

委員～丸投げはすごく良くないが、往々にしてそういうことが起こり得る。審議会で行政に対して、あれが良いこれが良いと言い放って、それを行政に丸投げして、結局は実行に結びつかないという事になってしまう。うまい手立てができると、実は時間もあるし、誰か人と関わりを持ちたいという人で余力のある方が、ボランティアをしてくれば、例えばここに夏休みの間、一晚15名だけ親同伴で受け入れたときのお手伝いとかはできるのではないか。できることから始めていかないといけない、図書館に人を集めるのに、なりふり構わずやらないといけないという事は、そういう事だと思う。

委員～札幌市では、テレビ塔下の地下街で防災のお泊り会が開催されている。まちづくり会社が受け皿になり企画運営し、札幌市が場所を提供している。ボランティアではなく責任を持ったNPO等の団体が受け皿になり、リスク管理を行えば現状の建物でも可能だと思う。なりふり構わずがどこまでやるのかが問題だが。

委員長～今後の図書館に求める役割、機能について、のんびりできる、静かに勉強ができる、お年寄り同士がお話ができるようなサロンといった施設、設備の話が最初出ていた。途中から、それだけではなくて、図書館にどういったことをやってもらうかという事

で、一つのアイデアとしてお泊り会があるのではという意見が出た。それを今すぐやれという事ではなく、こんな事もできるのではないかと、こんな事やってもらったら良いのではないかと話かと思う。

一番大事な事は、多くの人を求める、読みたいと思う本がそろっていて、目に触れること。だから皆さんが言うように、書架が足りないんじゃないかと。そして、閉架にたくさん本が入っているとか。あるいは、図書購入の予算がもっと多ければ、もっと多くの本が買えるのではないかと、というような話になる。しかし、本が揃っているという事だけで図書館の役割は終わりではなく、その本をいかに読んでもらうかという取り組みが、図書館の職員に求めることだと思う。

小中学生の読書感想文コンクールを図書館主催でしているが、応募数が少ないと思う。教育委員会として小中学校に働きかけて、夏休みの課題として全員読書感想文を書きなさいという事はできないのか。せつかく読書感想文コンクールで最優秀賞とかに選ばれたのであれば、そこで終わりではなくて、朝日新聞社主催のコンクールとか文科省主催のコンクールとかに出すとか、そういうようなこともすれば、もっと子供たちの意欲もわくと思う。そういう意味での、小中学校、幼稚園、保育所との連携をもっと図れるのではないかと。

それから、この図書館の中で一番読まれている本、作家はどうなっているのか、年間ランキングはどうなのかというの誰も知らない。ランキング表が貼ってあると、私も読んでみようかなと興味がわく。読書傾向が分かるような情報提供をもっとしてほしい。そうすれば、置いてある本がもっと活用されると思う。

それと、先ほどの子供向けのイベントだけではなく、大人向けのイベントの充実。今度、文学散歩もあるようだが。イベントをやるとヒト、モノ、カネいろいろかかるので大変だが、読書会的なものができなかと、宮尾登美子記念館と連携して何かできないのか。イベントを企画すれば、もっと図書館に人が集まり、本がもっと活用されると思う。

委員～今全国的に、飲食が出来たり、小物、雑貨が売っているような書店が多く作られているという事は、そこにすごいニーズがあるのではと思う。

委員～書店でコーヒーを飲みながら買う前の本を読むのだが、結局、コーヒー代で儲かる。長く滞在すれば、そこでまた財布のひもが緩くなるという事で、空間の質をいかにあげるかという発想で民間はやる。ニーズがあることは確かだが、それを公的な組織でやるとなると、汚れる心配があるから、それをどこまで良しとするのか。函館の中央図書館は中では飲めないが、外には飲食コーナーがある。貸し出した後については自由になっている。その空間的な仕切りをどうするのか。貸し出すという行為を踏ませるのか、貸出前でも良しとするのか。公共施設では中ではやっていないのかもしれないが。

委員～それこそ、実際に本を借りた人は家では飲食しながら読んでいるのだから、お外カフェみたいな感じでできないか。

委員長～TSUTAYA図書館がきっかけで、図書館で本を読みながらコーヒーを飲むというのが一つのステイタスみたいな、憧れみたいな流れになっている。図書館運営協力会でもそのような話が出ていた。図書を扱っている方の人間は、開架スペースでの飲食は絶対に認めたくないという立場だと思う。だけど、それを借りて、サロンのスペースでコーヒーを飲みながら読めたり、おしゃべりができたりとう図書館がブームになっている。市立の図書館でもTSUTAYAに委託しようというところもあるようだ。インターネットで話題になったように反対もあるようだ。

委員～函館のTSUTAYAを見ると、遠いところに自転車で来てまで、中高生がすごく学習している。ステイタスになっているのだと思う。函館で民間事業者がやっていることなので、そのまま参考にはできないが、すごくカッコいいものを作るとそのために人は集まる。

委員長～最終的に、図書館のあり方を整理するとき、建物のあり方だけではなく、図書館の役割、果たしてもらおう機能としてはどうか。

委員～登別の図書館が好き。何が良いかという、司書が頑張っている。アメリカンコミックを置いているのだがそれがどういう風に面白いのかという事をPOPを貼ってPRしている。そうすると気になって手にとって読む。こういう世界もあるんだと思った。本との出会いの最初の一步が、背表紙が見えているのか、表紙が見えていて、POPで説明が書いてあるのか、熱のこもった文章があるかで変わってくる。図書館からの利用者への語りかけの工夫をしている点が良いと思う。移動図書館車に子供たちがすごく集まってきているのも目にする。

ところで、この議論は、この本館だけの話なのか。それとも図書館のシステム全体の話なのか。今後の図書館の制度やしぐみやシステム含めてこの会で議論するのが気になる。

事務局～枠は設けなくて、会議の中で意見の出たことについての提言という事で良い。実際にその提言内容が実現できるかは、予算や人的な問題があるので全てとはいかないかと思う。

委員～TSUTAYA等の民間になると、利益を得るために人をよばなきゃいけないとって、それこそ必死になって色んなことをやる。ところが、市で図書館をやっているという事は市の職員の仕事の場でもあるし、正規の職員でなくても雇われて働いている人もいる。彼らの立場を考えたときに、むやみやたらに、働く場を奪うとか奪わないという話にはならない。そういったことも考慮して論議しなければいけない。

委員～本と出会うための仕掛けをするべきだと思う。子供が本を読みたいと思うためには、やはり、本と出会わせなければいけないので、その仕掛けづくりをしていかないとけない。高齢者についても同じこと。ちょっとユニークで楽しい、すぐできることもあるかもしれない。ハード面から入っていかないとできないこともあるかもしれない。とにかく、本と人を結びつける。良い点も悪い点もあると思うが、今の時代、全部インターネットの世界に入り込んでしまっている。紙でできた本といかに出会わせるかという事が、すごく大切なことだと思う。

委員長～具体論は別として、まず、図書館には子どもから高齢者までに本と出会う機会を提供する事を仕掛けとしてやっていていただきたいと思う。

委員長～まとめると、まずは読みたい本や調べたい本がそろっている場所であり、それから、生活に必要な色んな情報が集まっている場所であり、なおかつ、静かに学習や調べ物ができる場所であり、また、のんびりと新聞や雑誌を読んだり、コーヒーを飲んだりしながら、時には、集まった人同士でおしゃべりもできるような場所であれば良いのかなという意見かと思う。

それに加えて、子供だけではなく、大人の立場から見ても、今どういう本が多く読まれているのかとか、さまざまな書籍や読書に関する情報を提供してくれる場所であれば、読書に対する関心ももっと高まるかもしれない。図書館の中だけではなく、広報等に掲載されたらおもしろいと思う。そして、読書に関する様々な活動の中心地

であれば良いと思う。人と本を結びつけるような活動なのかと思う。

委員～先ほどの登別の移動図書館車の良いところは、本との出会いである。空間的に、へき地にいる方でも本と出会える。この本館だけの話ではなく、全体の制度やしきみ、システムまで含めて、第3回での議論を期待する。

委員長～それでは、同規模の市の中でも職員数が一番少なく事務局は大変だと思うが、今回の内容を整理して第3回までに示していただきたい。今回の話には出なかったかもしれないが、本来、公共図書館にはこういう役割が課されているという点があれば、それも含めてお願いします。

事務局～了解した。次回は、9月14日（水曜日）午後6時30分から、閲覧席で開催する。

3. 閉会